2026年度ウルサン大学交流プログラム報告書－受け入れ

＜受け入れ時全体目標と振り返り＞

1. 積極的にコミュニケーションをとって大分や私たちのことを伝え、楽しい気持ちを共有し、関係を築くことができる。
   → お互いに質問しあい、プレゼンや日本の文化の体験を通して日本のことを知ってもらうことが出来た。また、様々な方法でコミュニケーションを取り、全員積極的に話すことができ、短い期間のなかでお互い楽しい時間を共有できたため、目標は達成できた。
2. 日本の看護や保健、医療、福祉について、韓国の学生と気づきや疑問を共有し、調べ、伝え合うことで、共に学びを深めることができる。
   → 病院見学を通して、それぞれの学びを深めることはできたが、医療の専門用語については言語の壁が大きく、共有する事はできなかった。韓国の学生の考え方や着眼点、医療現場の違いについて知ることが出来たが、私たちからのフィードバックを行うことは難しかったため、目標を達成することはできなかった。
   以上の反省点を踏まえ、韓国への派遣の際は、医療従事者からの返答だけでなく、学生同士で質問することで共に学びを深めるために、韓国の医療制度について事前に調べ、実際に現地へ行くことで、新たな気付きを得ることができるよう努める。

＜プログラム＞

1日目　2026年7月20日

〈福岡空港へ出迎え〉

1日目は、韓国から来日するUOUの学生を福岡国際空港で迎え、大分へ移動しました。朝、大分駅に集合した後、福岡国際空港へ向かいました。福岡国際空港では、国際線の到着ゲートでUOUの学生と合流しました。韓国語で作成した歓迎うちわやウェルカムボードを掲げ、出迎えました。お互いに探り探りではあったものの、韓国語や日本語を織り交ぜながら会話を交わしました。また、UOUの学生は以前日本に来たことがある学生が多く、福岡や東京に行ったことや、大分では、別府に行くことが楽しみなど、日本のことについて話しました。福岡国際空港から大分まではバスで移動しました。バスの中では、大分の学生とUOUの学生が交互に座り、福岡から大分へ移動する中で、お互いのことやこれから数日間を過ごす大分の地域を知る機会にもなりました。

〈ウェルカムパーティー〉

夕方からは魚介のお店で夕食をとりました。そのお店では、福岡の名物のもつ鍋を食べました。UOUの学生ははじめて食べる方も多く、もつ鍋は福岡の料理であることを伝え、おたがいの地域の料理についても知ることができました。また、夕食を一緒にとることで、これから始まる交流に向けて学生同士が親睦を深める時間となりました。お互いの学生生活や実習の話など、日本と韓国の学生生活の違いを共有する時間となりました。特に、UOUの学生は、日本の学生の多くがアルバイトをしていることに驚いていました。

〈オリエンテーション〉

夕食後は、同じ会場でオリエンテーションを行いました。これからのプログラムの日程や活動内容について確認し、翌日から始まる大学での交流や施設見学に向けて準備を行いました。お互いに朝が早かったので、UOUの学生とは解散し、次の日に備えました。UOUの学生はコンビニにいき、日本のお菓子や雑貨などを買ったみたいです。

2日目　2026年7月21日

2日目は本学にて、歓迎式、オリエンテーション、予防的家庭訪問実習の紹介、学生による大分紹介、キャンパスツアーを行いました。午後からは大東よつば病院を訪問して見学を実施し、夕方には大分市内で自由時間を設け、地域の魅力に触れる機会となりました。

〈歓迎式・オリエンテーション〉

大学のロータリーでUOUの学生を出迎え、中会議室にて歓迎式を行いました。互いの自己紹介では、UOUの学生は日本語で、本学の学生は韓国語で挨拶を交わし、和やかな雰囲気の中で本格的な交流プログラムがスタートしました。その後のオリエンテーションと大学紹介では、担当のShirley先生から本学の概要や今回の交流プログラムの意義について説明が行われました。また、UOUの学生から、韓国のお菓子やスキンケアなど韓国のお土産をいただきました。

〈予防的家庭訪問実習・大分紹介〉

篠原先生より「予防的家庭訪問実習」についての講義が行われました。これは全国的にも珍しい本学独自の取り組みです。看護を学ぶ学生にとって、医療機関だけでなく地域や家庭に根ざした看護の視点を養う貴重な経験となります。UOUの学生からも大学の周囲の地域についての質問や、対象者のご自宅までどうやって行くのかなど活発な質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。

続いて、本学学生による大分の紹介を行いました。大分の観光地をはじめ、音楽、食文化、漫画などを多角的に紹介し、UOUの学生が大分に親しみと興味を持つきっかけとなりました。特に、進撃の巨人の銅像が日田駅やダムにあることを説明すると、進撃の巨人が好きなUOUの先生が興味深そうに聞いていました。また、とり天やりゅうきゅうやからあげなど大分の名物についても紹介し、お～！と好反応でした。

〈キャンパスツアー〉

本学学生の英語による案内で、キャンパスツアーを実施しました。講義室、図書館、カレッジホール、実習室（母性・成人・地域）、食堂を順に見学し、実際の学習環境を体感してもらい相次ぎ、日韓の施設や環境の違いを実感するとともに、今後の相互訪問での着眼点を得る良い機会となりました。母性実習室では、助産師の先生のもと、エコーや妊婦体験なども行い、実際に体験でき、いい学びの機会になりました。

〈本学食堂での昼食〉

本学の食堂にてウェルカムランチを開催しました。メニューはそうめん、コロッケ、しそジュース、漬物、ご飯、そして食後には夏の花である「芙蓉（ふよう）」を模した練り切りと緑茶を提供しました。UOUの学生と本学学生が交互に席に着き、午前の活動を振り返りながら食事を楽しむことで、さらに親睦を深めることができました。

〈大東よつば病院〉

昼食後は大学を出発し、大東よつば病院へ向かいました。大東よつば病院では、実際の医療施設を見学し、病院の環境や医療・看護の現場について学ぶ機会となりました。大東よつば病院は地域包括ケア病棟を主とした病院でした。「地域包括ケア」という日本独自の医療体制についてや人口の増減や地域のニーズに沿って病院を移転したこと、病院の事業についての説明など詳しく教えて下さり、大東よつば病院や回復期・生活期における医療の必要性を学ぶことができました。

病院では、全床スマートベットシステムを導入していて、UOUの学生はモニターがあるなかでの業務やモニター上のマークの意味などを質問していました。特に、看護師が各自アルコールを携帯していることを質問していたことが印象的でした。韓国ではアルコールは各病室の前に置いていて、各自で携帯することはないと教えてくれて持ち物にも違いがあるのだと驚きました。

〈夕食〉

17時からは大分市内でフリータイムとなり、学生は大分市内を自由に観光しました。
その後、餃子のお店で夕食をとりました。特に水餃子が好反応で、すごくおいしいと言っていました。韓国のドラマや方言について話し、特に、釜山の方言は、抑揚と語尾が変化することを教えてもらいました。大分でも方言があることを伝えて、お互いの言語についても知ることができました。

夕食後はホテルへ戻り、解散しました。大学での学習、医療施設の見学と、一日の中でさまざまな交流を行った一日となりました。

3日目　2026年7月22日

3日目は、国際看護学演習への参加とアルメイダ病院の見学を行いました。午前中は大学で看護について学び、午後からは実際の医療施設を見学することで、大学での学習と医療現場の両方に触れる一日となりました。

〈国際看護学演習〉

大学にて、2年生の国際看護学演習をおこないました。国際看護学演習では、本学の学校生活について、日本の文化について、七夕の体験について2年生が3グループに分かれて、英語でのプレゼンテーションを行いました。韓国の学生は日本の文化を体験するために浴衣を着用してもらい、七夕の飾りや願い事を書きました。この体験は韓国の学生の中でも5日間

の中でも特に記憶に残る体験になりました。互いに看護を学ぶ学生同士であり、交流を行うことで、どのような内容を学習しているのかを知り、国際看護に触れる時間となりました。

〈昼食〉

昼食には石丸、麻生、栗山が参加し、りゅうきゅう丼やてんぷらの定食を食べました。日本はお箸が主流であり、昼食のお店にはスプーンがなかったため、りゅうきゅう丼をお箸で食べることに苦戦していました。午前中の演習を終えた後であり、UOUの学生は浴衣を着た事が一番印象に残っている様子が見られ、とても楽しかったと話していました。昼食後は午後の病院見学へ向かいました。

〈アルメイダ病院〉

アルメイダ病院へ到着し、病院見学を行いました。アルメイダ病院では、急性期病院における病院内の施設や医療環境を実際に見学しました。アルメイダ病院では、日本の看護体制についても説明していただき、日勤夜勤の2交代制であることについて説明していただくと、UOUの学生は夜勤中に急変が起きた場合や休憩はあるのか夜勤の頻度などについて質問していました。また、病院の見学では、ICUやHCU、ERなどを見学させていただきました。UOUの学生はERで使う医療機器に興味深く質問していました。さらに、アルメイダ病院がもつ救急車にも乗車させていただきました。救急車内での医療提供について教えていただくことができ、UOUの学生が患者役としてストレッチャーを体験させていただきました。

今回のプログラムでは、病院を実際に訪問して見学する機会が複数設けられており、急性期、回復期、慢性期と幅広く日本の医療現場について知ることができる貴重な機会となりました。

〈夕食〉

夕食は二手に分かれ、しゃぶしゃぶととんかつのお店に行きました。夕食後は日本のゲームセンターに行きたいとの希望があり、同施設のゲームセンターに行きました。そこで、写真を撮ったり、UFOキャッチャーなどをして交流を深めました。

4日目　2026年7月23日

4日目は、別府リハビリテーションセンターの見学から始まり、午後には別府市竹細工伝統産業会館で竹細工を体験しました。その後、地獄めぐりや別府市内の観光を行い、夜にはフェアウェルパーティを開催しました。この日は、施設見学だけでなく、伝統文化や観光についても体験する一日となりました。

〈別府リハビリテーションセンター〉

別府リハビリテーションセンターでは、リハビリテーションを行う施設を実際に見学しました。リハビリテーションの現場では、身体機能の回復だけでなく。食事や排泄、入浴、外出など、退院後の生活を具体的にイメージした訓練が行われている様子などを見学しました。また、B型事業所に行き、作業している現場を見学しました。利用者の方々がそれぞれの能力やペースに合わせて作業に取り組んでいる様子から、就労の機会を提供するだけでなく、作業を通して社会とのつながりを持ち、達成感や自信を得られるよう支援していることを学びました。

〈別府亀の井ホテルにてビュッフェ〉

施設見学を終了し、昼食会場へ向かいました。別府亀の井ホテルではビュッフェスタイルの昼食をとり、参加者同士で食事を楽しみながら交流しました。大分のとり天やりゅうきゅうなど種類も多く、どちらの学生も昼食の時間を楽しむことができ、午後からの活動に向けて休憩する時間となりました。

〈竹細工体験〉

昼食を終え、別府市竹細工伝統産業会館へ到着し、竹細工体験を行いました。キーホルダーサイズの竹鈴にカラフルな竹を通し自分だけの竹鈴を作ることができました。別府市竹細工伝統産業会館の方が日本語で説明をしてくださり、日本の学生が隣に座っている韓国の学生に英語や韓国語、ジェスチャーを交えながら説明を行いました。別府は竹細工の伝統がある地域であり、竹細工について実際に体験することで、地域文化や伝統産業について知ることができました。

〈地獄めぐり・別府市観光〉

午後は別府市へ向かい、日本有数の温泉地を代表する「海地獄」を見学しました。 鮮やかなコバルトブルーの湯面を目にし、「なぜ青く見えるのか」といった質問が出たほか、隣接するお土産屋さんでの買い物も楽しみました。海地獄の美しい景観を写真に収めるだけでなく、地獄めぐりを初めて知る学生に案内・説明をすることで、自分自身の理解もより深まりました。大分を代表する観光地を実際に訪れたことで、地域の魅力や観光資源の特色を肌で感じる貴重な機会となりました。

〈フェアウェルディナー〉

夕食は「花鳥風月」でフェアウェルパーティを行いました。これまで数日間一緒に活動してきた参加者が集まり、食事をしながら交流を深めました。UOUの学生と日本の学生が感想の発表を行い、5日間の思い出を振り返り感極まる場面もありました。日本の学生からプチギフトとメッセージのプレゼントを行い、とても喜んでもらえました。日本の大学での交流や医療施設の見学、地域文化の体験など、これまでの活動を振り返りながら、参加者同士が交流する最後の思い出の時間となりました。

5日目　2026年7月24日

UOU学生のうち1名が早朝に出発したため、UOU学生7名を本学の派遣学生が大分駅で見送りました。5日間の交流を通して築いた関係の深さが感じられ、寂しそうな学生の姿も見られました。「また韓国で会おう」と話し、姿が見えなくなるまで手を振り合いながら、名残惜しい別れとなりました。

その後、UOUの学生7名と本学の派遣学生2名がソニックに乗車し、大分駅から博多へ向かいました。博多駅到着後、本学の派遣学生2名はUOU学生7名を見送りました。その際も、寂しさを口にする学生や涙を流す学生の姿も見られ、5日間の交流を通して学生同士のつながりが深まったことを実感しました。

これで5日間にわたるUOU学生交流プログラムの全日程が終了しました。今回の交流プログラムでは、本学での歓迎式や大学紹介、キャンパスツアー、国際看護学演習などを通して、本学における看護教育や地域に関する学習について知ってもらう機会を設けました。

また、大東よつば病院、アルメイダ病院、別府リハビリテーションセンターを訪問し、実際の医療・リハビリテーションの現場を見学しました。さらに、大分市内での観光や別府での地獄めぐり、竹細工体験などを通して、大分県の地域や文化、伝統にも触れることができました。医療施設の見学、地域文化の体験、そして参加者同士の食事や交流を通して、5日間にわたって幅広い交流を行うことができました。